

岡山県立勝間田高等学校第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和3年2月24日(水) 13:30~16:00

場所 岡山県立勝間田高等学校記念館3階会議室

(委員15名のうち、14名が出席)

1 開会行事

校長挨拶

会長挨拶(水嶋勝央町長)

事務局より本日の日程と配布資料の確認

2 令和2年度学校の運営に関する評価

(報告 校長・副校長・事務長)

校長 学校の生徒募集状況について報告

副校長 第2回学校運営協議会以降の教育活動について報告

副校長 学校評価書について事務局より報告

事務長 令和3年度事業実績と決算報告

全委員 学校運営協議会委員による評価

1 学力向上…B 2 生活習慣の確立…B 3 進路実現…B 4 情報発信・広報…B

3 令和3年度学校運営基本方針協議

(1) 令和3年度学校経営計画書(案)(報告 校長)

令和3年度学校経営計画書1から6までの項目となっている。項目1の校訓、項目2の学校教育目標は変わるものではない。地域の方あるいは中学校の方にいろいろと意見を聞かせていただくなかで、学校教育目標の学校のミッション、使命、存在意義として農業関連産業に貢献する。項目3の学校内外の環境分析、内部環境の強み・弱み、外部環境の強み・弱みというのは、実感として内部環境、外部環境が上がっている。強みを十分に成果としてできている。項目4のミッション、実現しようとする本校のビジョン、将来像、目指す姿については3本柱、社会に通用する生徒、専門のコースで学んだ知識・技術を身につけた上にしっかり活用できる生徒、勝間田高校に誇りを持てる生徒、そういった人材育成をしたい。具体的には柱としては学力向上、生活習慣の確立、進路実現、それから効果的な情報発信というような4本立てである。項目6ではスクールミーティングの内容、直接生徒の声を反映させる学校経営目標、主役の声が反映される学校経営目標になっていなければということから令和2年度から4項目、生徒たちからあがった声(意見)を中心にあげています。このような構成で学校経営計画書を案として提案させていただく。

(2) 令和3年度主要事業予算(案)(報告 事務長)

学校経営予算について、第一条にあるように、この事業は校長の裁量権が拡大して学校の教育目

標が達成できるように各学校の特色や地域性などを活かして弾力的な予算である。

特色づくり推進事業 わさび田復活プロジェクト、特産品の商品化、小学校の森林体験、栽培体験などの交流、地域交流事業、自動車コースの特色づくりでエコカー全国大会出場等を計画

地域探究活動推進事業 1年生の産業社会と人間、2・3年生の総合的な探究の時間を利用して3年間の学びを系統的に学べる地域探究学習を推進

社会人講師活用事業 詳細は講師の交渉等していかないといけないので、未確定の部分もある計23名の方に協力、専門的指導を計画

図書館活動充実事業 各コースに関する書籍、生徒の興味・関心のある図書を整備

高校生発！木のぬくもり実感事業 林業、建築、商品開発の実習を行う高等学校の生徒が県産材を活用した商品開発や小・中学生を対象にしたものづくり教室を実施

森の担い手育成事業 林業就労に向けた基礎及び高度な技術の習得、先進県の視察を行うことが目的の事業。県林政課の事業を本校が受けて実施しているもの。

(3) 令和4年度教育課程（案）（報告 副校長）

内容は省略

すべての委員から案の了承を得る。

4 職員の任用に関する意見

(1) 本校教育の魅力づくりを進めるために必要な教員の配置について

(2) 本校教育の魅力づくりを支えるための人材雇用予算について

概要説明（校長）

令和3年度入学生から3学級規模120名定員募集となる。高等学校魅力化推進事業では小規模化してきた学校に対して地域と学校の連携のあり方を研究して、配置したコーディネーターの活用した地域との連携促進によって、教員の質を確保した学校づくりを図る。この指定を受けて県からの予算を使わせていただきながらコーディネーターを配置する体制をとる必要性がある。

5 情報交換等

委員より（意見）

委員1 しょうおう志援協会でも人づくりに取り組ませていただいている。これからどんな能力が必要になってくるか、実際に勝間田高校のスクールミーティングを見学して感じたことだが、良い意見を持っている生徒も多いが前に立って発言できる生徒が少ない。せっかく良い意見を持っているのにすごく損をしている。コミュニケーション能力を是非高めてあげてほしい。話をしていると自己肯定感の育成は勝間田小学校の学校運営協議会でも度々言われるが、自分のことを高めていく、自信を持って発言できるような人材はすごく大事だと思う。これからの時代はITリテラシーをしっかりと踏まえる必要がある。今回、支援協会の取り組みのなかでいろいろな発信をしました。取材して人の話を聞く力、自分で内容をまとめて発信する。発信する能力を高めるための授業を取り入れていくことも行っていくとより勝間田高校が目指すところ、社会に役立つ能力を育むことが勝間田高校ではできると（地域に）思ってくれる。一見、高校のカリキュラムと関係ないようだが、そういった能力も高めてもらえるような授業を取り入れてくれると嬉しい。しょうおう志援協会としても人材を派遣することなど協力できると思います。

委員2 ご意見に共感するところがたくさんあります。多くの学校に行かせていただいている。おもし

ろい事例として、ある私学では生徒が全く自分の学校に誇りを持っていない。看護科専攻科2年生に医療探究というプログラムをさせていただいた。結論からいうと地域の医療がこんなに困っている。看護師になる人たちですが、もともとこの学校を選んだ理由は行く学校がないから。親は何か資格を取らせたい。生徒たちは5年ですからちょうど卒業したが、ある病院の先生からこう言われたそうです。今年の生徒は面接のときに医療のことをよく勉強をしている。今までと違う何か教え方をやったのかと聞かれたそうです。総合的な探究の時間に関わらせていただいて、そのときいろいろなワードが出てくる。それを自分の言葉でどうやって話ができるようになるかを家で学習している。つまり宿題を出して勉強しろと言ってもしない。そうではなく、外に出て大人と対等に話をすると input しないといけない。input をすると必ず output したくなるので、input と output の繰り返しで、非常に勉強になるという事例で、いろいろな学校で話をさせていただいている。来年度、勝間田高校に外の人たちとの関わりとか、友人と意見でぶつかって議論ができる。来年はそういったところに関わらせてもらいたい。

委員3 私もコミュニケーション能力が大切だと思いますが、もう一つ、国が今スマート農業を非常に言っているかと思うので、スマート農業やバイオ戦略のようなことを今回2021年度のSDGsのアクションプランのなかでも、そういったことが具体的に入ってきていまして、いろいろな農業をAI等を使ってやっていくようなことがあります。そういったことに対応ができる、かなり農業のやり方は変わってくるのではないかと思うので、そういったことが学べたりすると非常に良いと思いました。

委員4 高大連携の協定を、今年はコロナがあつてなかなか、うまくいかなかったが、来年度はぜひ勝間田高校と協定を結んで、将来的には本学に来てほしい。今日も経営会議があり、短大の学生数が減っている。

委員5 本日の協議会で勝間田高校を取り巻く状況が少しずつ変わってきている。さらにそれも多くの可能性のある提案が今日の会議でもあつた。今まで点と点だった小・中・高が線でつながる可能性がある。しょうおう支援協会などとの連携により情報発信と生徒の育成、本校の教育資産がうまくつながっていく。勝中央としても勝間田高校をサポートしていただきたい。

6 閉会行事

- (1) 校長より
- (2) 事務局より